

筑紫清溪集

博多下

三

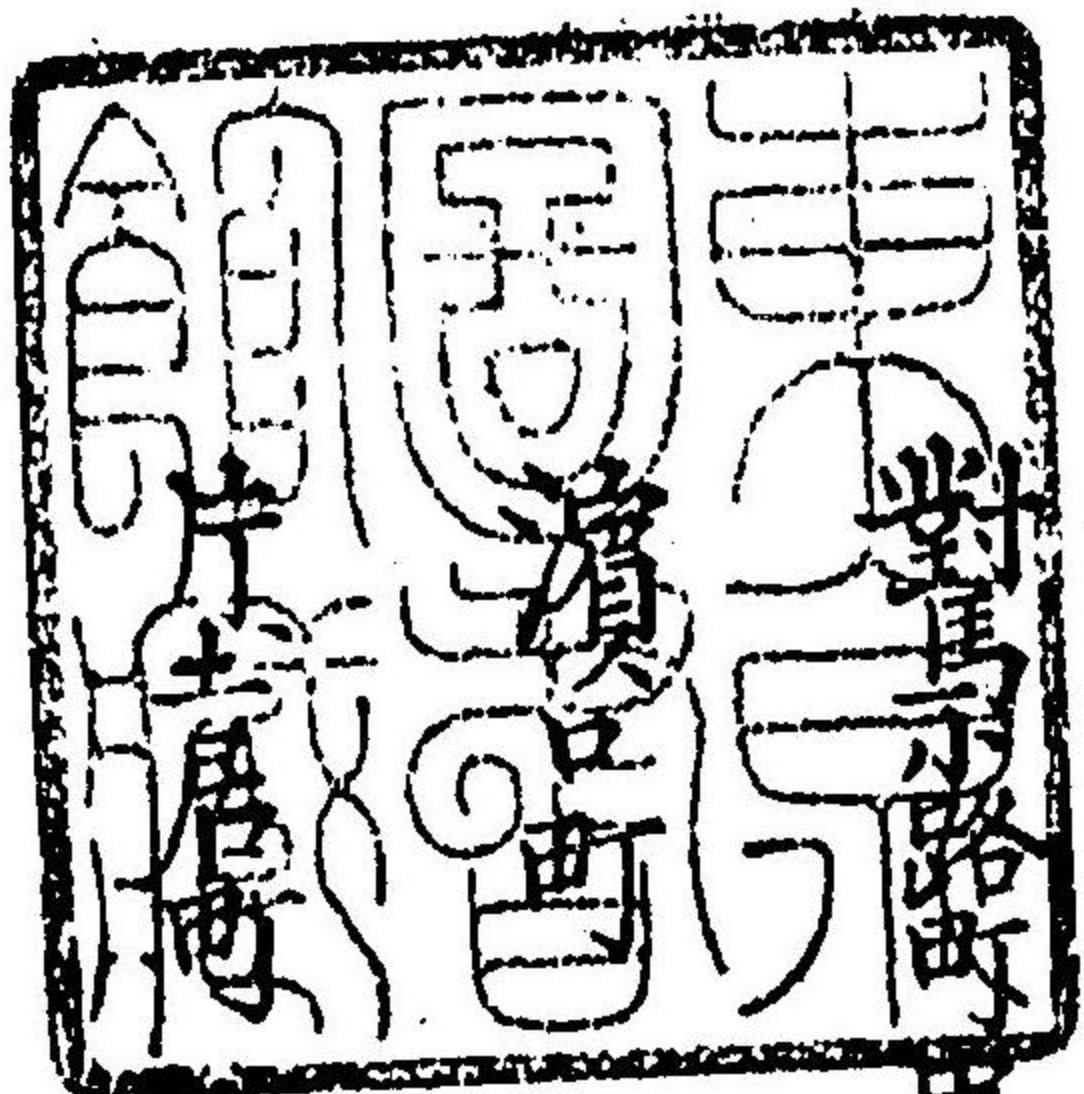
111
254

館書圖京東				
一	二		一	
四	五		一	
冊	號	架	函	類門

鏡紫遺愛集卷三目錄

博多下

孝心者



伊四郎

又七

惣右門

魚町中

甚右門
口妻

西町下

育女
三千壽

北軒町

甚藏

洲崎町中

藤七

掛町

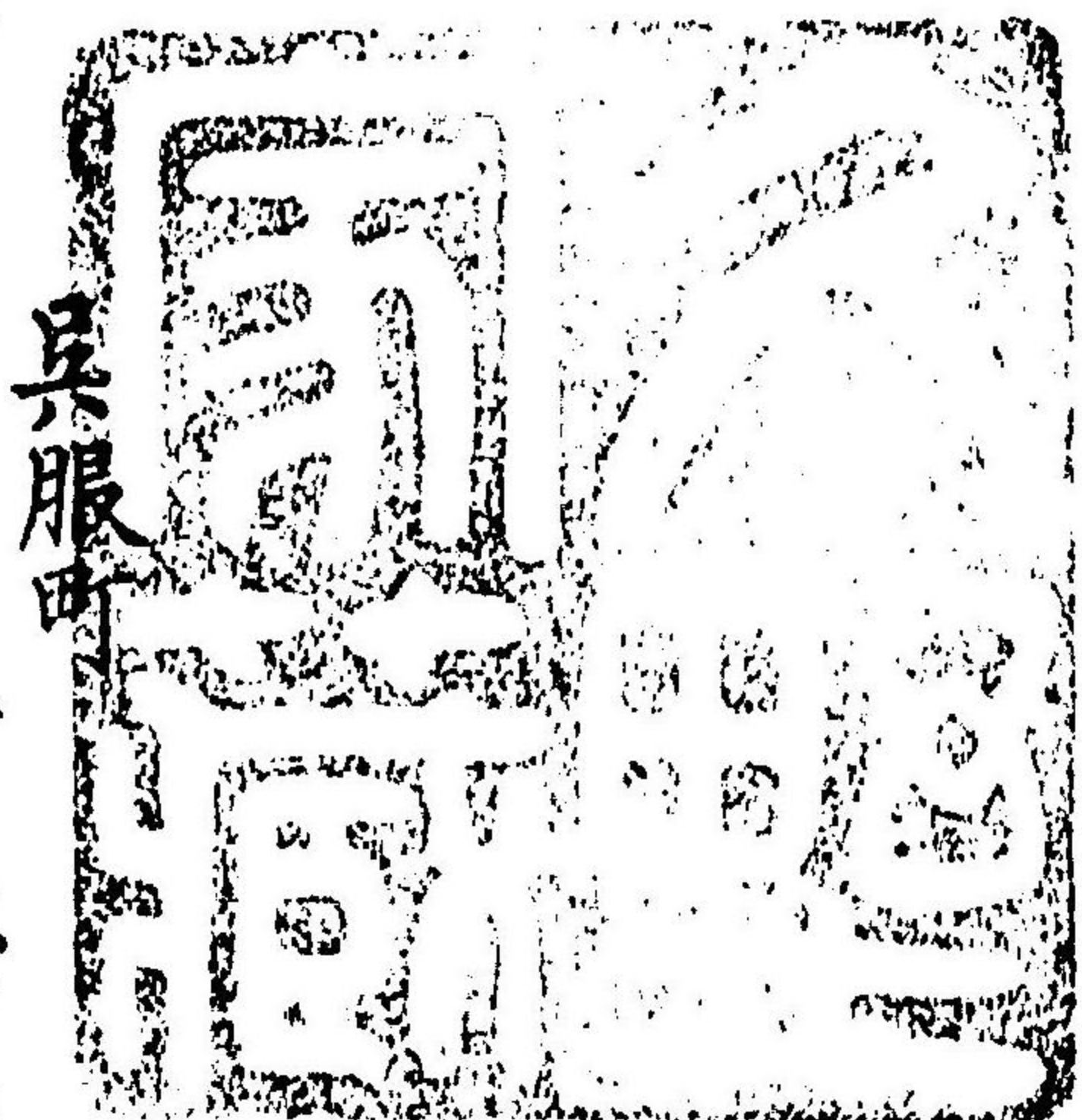
相部幸右門

東町上

嘉平

對馬小路町

市平
平四郎



大賀惣右門

洲崎町

巳之助

掛町

久次

行町

新藏

吉小路町

久吉

鰯町下

吉次郎
吉左門

社家町

鶴吉

奇特者

店屋町上

森長右門

鰯町下

源助

箔屋番

中村清三

忠義者

箔屋番

正次郎

土居町上

磯野七平
口妻

奈良屋番

次右衛門

新川端町

傳左門

洲崎町

九人

店屋町

笠惣五郎

洲崎町

松尾又次

東町

平助

土居町

廣瀬兵右衛門

栗方寺前町

豊次郎下人

清助

新川端町

兵右衛門下人

藤吉

祇園町

土左衛門下人

吉兵衛

土居町下

三左衛門下人

茂助

貞節者

濱口町

市次
妻

鰯町下

甚左衛門下人

和作

東町下

新助下人

與吉

奥小路町

又六下人

次八

社家町

藤助

新川端町

傳次郎下人

幾次

金屋小路町

平吉下人

次吉

吳服町中

善兵衛下人

清兵衛

土居町中

鹿島下人

伊三郎

中島町

惣

後家

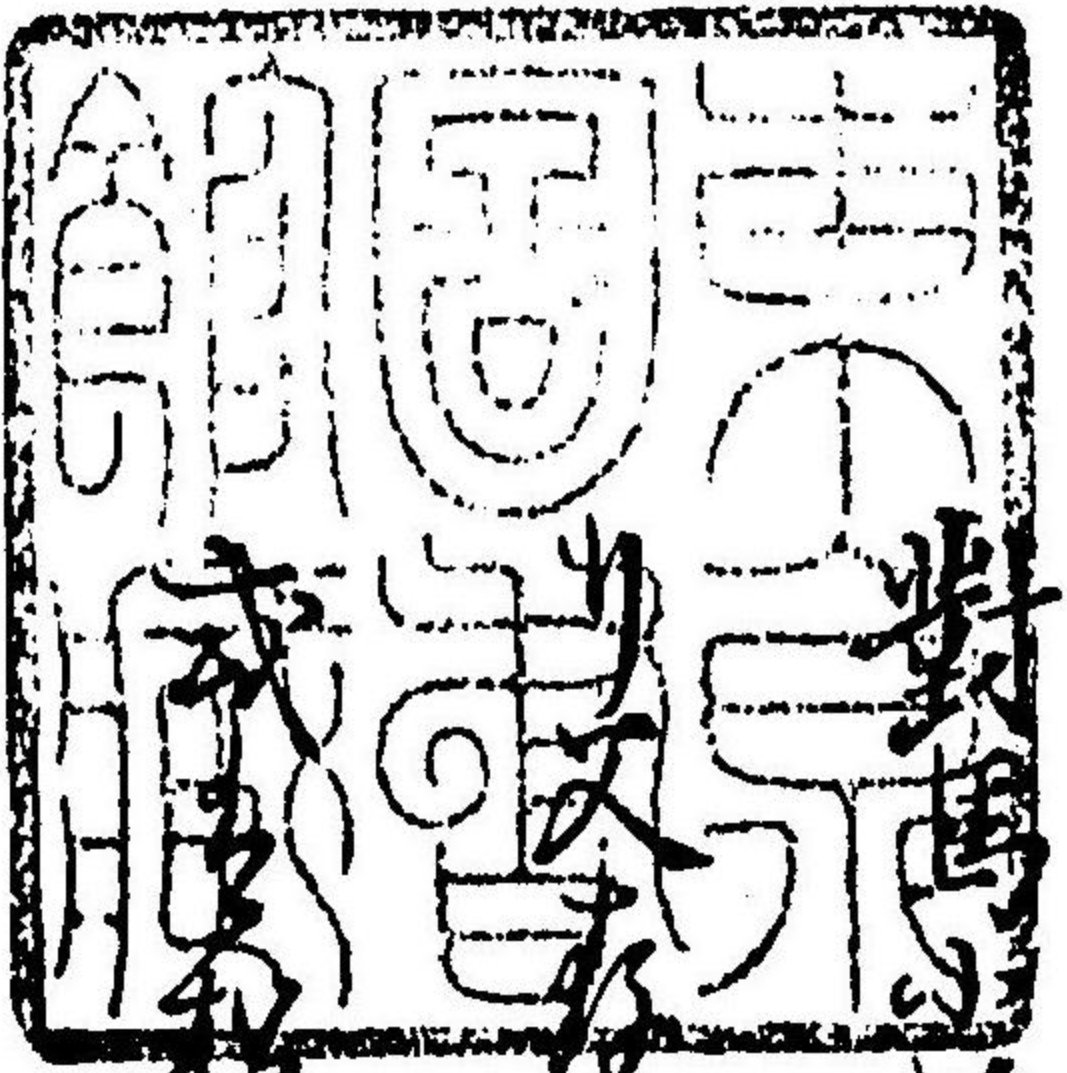
筑紫遺愛集卷三

伊藤道保編輯

博多下

孝心者

伊四郎



對馬國津路町伊四郎父を捨入らりて十八歳より病を患
り父を侍伊四郎志幼年はく志くも家多事く細工日雇
成り親を養ふを愛く其母を返りけきよ父を侍
アコラづ父のくはわをせん事を欲せり父常によよと
をこのみけりゆゑ石所買求めり春めをくくも草子
かこくく父の親き友を侍集衆のまゝ父の心を

顔たまもせりひもせ道保の業のたを叩たたきくま

歌かきあきよもことたたき

又七

濱口町中年寄又七の孝子に獨母に侍る何事たりと
のまよ脊まきこもか妻も自ら実をさる者まき又の風後
よすしひ姑に能事へ室内膳まきさる又七徳法を
世帯しけり人教多を使ひけり愛憐を加ふまき
文化九年より町役を勤むに室女米穀を價うらのまきふ
一町の米を自給すまき愛護しけりまき又七

とて代議拂ひのまき者もあまを二度も催促せんか
て密に補助しけりぬまき町内給米ける者の救済と
三年の間所時と錢を物立事にお雁の利分を加へた者
へ相渡或ハ町役事より初る紙墨料を五年の所存の切立
へ加ふまき親切よとのけりぬ町内給米のまき使へり
よ近年米市おろしけりぬ又七生得自ら実より社筋介
をさる少も利欲よ遠りし役する最密より中一教を教養
せし由達 公藤文政五年褒賞しりまき相若しと初
けりけりぬ

て兄を教ひ甥に之助を養へけるが已に弟も叔父を孝教
共ニ孝養の精を以て家内ニまさる體なりと云ひけり
已之助亦和すし兄中を愛撫し朋友を親切ありし
き達 若聴文政七年申閏八月弟細若子と初りその
孝義を賞へり

こと此年子の後列布ハツトを信りて脱せり
年月の次をもく此を補ひり

惣右門

片土居町掃工惣右造の儀とてその者の孝行より養母

先年お果菅文儀とては久く孝行ありしは菅文政并にお
とらへぬきとら病ひまをけしを看病おとらしたる後
彼合子今も菅文の孝行を以て事行ふ事ありし合子
このみけおあまらうと其御事を宣へたりかたしとて
てきりしれりま病死し人のみま志初年にく年を
まうて人よく朝夕の合事一万端片時の時おまをせよとの
お病ひお怠りせず孝行を以てけりし人との交り
も活切しとて達 公聴文政七年申閏八月養母と
て其細若子と初り

相部幸右門

相部幸右門ハ、撰所相部某、昔より、母、兼種を、歎くを
生理、せり、幸右門、人となり、方、安んずり、昔、父母に、所、る、者
昔、右、より、き、昔、の、お、ま、り、家、の、よ、り、幸、助、と、り、
者、あり、と、愛、育、一、成、長、の、後、家、を、と、り、ち、迎、階、を、居
任、後、せ、せ、女、は、よ、り、安、の、昔、又、昔、果、よ、近、者、も、た、こ、こ、昔
母、ハ、幸、助、の、お、ま、り、昔、の、き、け、と、昔、右、門、の、朝、昔、の、り、安、否、を
と、り、此、より、時、ハ、必、何、方、へ、系、と、は、け、御、昔、か、か、り、西
昔、お、り、昔、母、の、昔、を、た、り、と、昔、の、下、玉、謙、を、愛

と、り、又、幸、母、の、安、否、を、も、不、然、と、い、思、昔、を、と、り、と、り、平
昔、お、家、内、を、と、り、お、娘、を、も、お、の、と、り、巨、使、し、お、お、の、お、人
と、り、家、の、昔、跡、を、所、り、一、病、と、り、昔、の、昔、の、昔、を、所、り、其
外、陪、徳、甚、多、と、り、と、り、か、り、昔、右、門、の、行、実、達
君、聽、文、政、七、年、申、十、二、月、昔、の、朝、昔、年、を、昔、と、り、衰、昔、を、と、り、昔
お、い、たり

久次

相生を久次ハ、撰所の人なり、又、後、在、傳、代、ま、り、酒、を、醸、す、を
生、業、と、り、け、り、と、り、昔、の、昔、の、衰、微、け、り、と、り、酒、造、り、と、り、る

養家の子方三郎一しる者ぶ家一銭財を多くつよ少おね
 かり親切をそと一族の周りをすくむと嘉平一慈愛ふく
 在使ひの者をとりり多し者入密し兼談を辨けり由
 有司一達一飛夢をきりしを甚厚く行ひいよく志を
 たく自製衣の着る兼之那所市田夜宿古笠四郡村に余
 分賣便一た代水のまを家民救ひの備後たんせんよくさ
 中一又以上四郡をいひは密秘なる係三郡村すも余がけ
 親兼談一たりとさくあつすは五郡本道寺村よ之次
 とら多民あり長病をまひあり難きをかりくつ移り
 百き重一兼談多ありを捨つるたのむたしすか
 多く根米衣の兼談共々なり嘉平親を孝よ人と志す
 五知むむき達 公聴堂登りりれ代年行日格よし
 わふ十時文政十一年五月ふんき

新藏

行所捕屋新野天性賢朴家和すく知年のけり又
 母事一方一ありり十五歳より父を離れ成長の随ひ益
 母に孝性を重し後初より其志を踏きつるも家内の
 者よも常よ教諭けり六自得化一室母を大切する

あはれ入り給へた母十二年以來お病なけりし病中お病な
を盡し追孝も厚く忌日よかあり申す事あり墳墓
を掃除しお墓と追おひの情年を種々怠りきり又
新嘉坡の後身より毎年しりし者あり追孝も怠りけり
申す病なけりし終家へけりしを常々おとすへ親切な事あり
たり新嘉坡平日お世帯お終を申し町内の交りも厚くし
妻も和順なり者なりお家内睦ましくお世帯お勤め
と違 君聽天保三年辰寅月朔五日を御ふ

三千壽

有女三千壽西町下は住り幼年より父を離れ獨母を養
へり三千壽頗る忠線をたぐひたまふお宴席よよんて或
中子もやとり彼先をとり母を後送りそけいんとお人
りし母も孝養の志厚くかたりお世帯も母の言よ養育し
ありけりし母の脊腰をたぐりし朝夕の食事も
心をこめてしきに解きし御事お世帯を調へ念はしきあり毎
日宴席の席ありお中子のおよらば行なふは殊殊と
たりし草子種のものもあかきし持守りし世に母の心
をたぐりしお人たりし或時母やんたりしにけりし例を



ちよきひる夜衣帯をとりて麻合を志れり介保一母
 の熟睡せしむる神佛をいのりけり六二を奉り誅を懐
 みりひらきよむ母の病を治復せり平日所用の者らよ
 及子仲間の変りもよまりて青女の身とて跡の行ひ
 かり由達 君聽天保七年申七月米若下を廻り
 褒賞をせられたり

三千壽青の身とて母に孝な愛保くちよきひる夜
 衣帯をとりて麻合を志れり介保一母の熟睡せしむる
 神佛をいのりけり六二を奉り誅を懐みりひらきよむ
 母の病を治復せり平日所用の者らよ及子仲間の変り
 もよまりて青女の身とて跡の行ひかり由達

たゞり長女をすまひしひ才を多し徳ありし其次を其末
と之り皆成長を多し随ひ志ありし父伯父も事なく
孝行を勤せり父伯父もた職業よく至る人に行けり
さみ才もよきもたはけ勤りの合事ホ念はし調へて
せ見守りし睦まじく善きりさる武八郎年中風を
らひ終る世をよき合抱を多し神佛の性徳を以
り又妙業いさ中一法中遠近を願ひし冥求めし服膺
せ保護を多しかりありや次子も念^念くくもきりし
是伯父治右衛門平生教導を多しりし是子も
皆を多し伯父も多し其徳を多しりし其也此事や

うへ達 君聴弁持ありし天保十三年宮三有次
并に兄弟三人の者入し其調を多し初りし徳を多しりし

鶴吉

社家町鶴吉安在徳ありし者の多し若しあれは其の温
和なり者多し父母も多し孝行甚だしくありし事
達 公徳も多し初りし孝行を多しりし其也
嘉永三年戊辰四月

磯野七平
妻

一て荒中^{ウラナカ}此國^{コノクニ}もたう皆^{みな}救^{すく}ふ及び^{及び}神^{かみ}をわ

國^{クニ}君^{ミコ}倉^{クラ}廉^{レン}をひききく旅^{ツツ}りゆすらふも衆^{タガム}多^タの饑^{ウシ}民^{タチ}を

ひきよむにうきく報^{ウケ}復^クのあ長^{ナガ}意^イを大^{オホ}坂^{サカ}を登^{ノボ}せしれ

よ神^{カミ}をく個^{コト}は且^{かつ}自分^{自分}行^イは残^{ノコ}敷^シをまゆり貧^ヒ民^{ミン}を救^{すく}ひり

口^{クチ}上下^{ジョウゲ}着^キ用^{ヨウ}にく所^{トコロ}城^{シロ}ま出^デたり所^{トコロ}役^{ヤク}附^{ツキ}所^{トコロ}ぬ織^{オリ}をうひし報

子^コ五^イ枚^{マシ}を初^{ハジ}りり且^{かつ}報^{ウケ}復^クを願^{ネガ}裁^{サイ}せりあられ年^{トシ}始^{ハジ}の神^{カミ}を

くけりてく國^{クニ}君^{ミコ}江戸^{エド}幕^{マク}府^フの社^{シャ}本^{ホン}松^{マツ}本^{ホン}をく救^{すく}えん

洲崎町者

享^{キョウ}和^ワ三^{サン}年^{ネン}亥^ヰ月^{ツキ}余^ヨ年^{ネン}列^{レツ}り十六^{ジュウロク}百^{ヒャク}とすり頻^{ヒシ}りてすり後



多人乞食を以て訪ふべく飢寒たりを例崎町柿谷和助
米屋次右衛門古手倉久吉米屋次次紙屋五平米屋菅原屋
金屋十右衛門角倉忠兵衛石屋長平以上九人の者も粥を賣
て合せ薪を焼く一火を以て先將造りてを無名に凌ぐ
せしむる多し飢寒を免むるにやうに世平達 君聴け
此の事或者入せしむるなり

平助

丸崎屋平助東町の金持の生は世平達より者よく高直
粒を以て交易する例を以て自ら平助の事不自由と思

ひ金持の米屋を賤賣粒買を者多し柳 高直の事
よ教導年々其の事其の志より世平達 君聴き
られ文化年々其の相若しを知り

源助

源助の鯛町下十右衛門より者の事多し兄と向居りて多
かき妻を以て十右衛門妻を娶りけり女子人を多し
たし妻を以て多し其後其の親を以て多し十右衛門の病を以
て多し貧乏を以て多し其後其の親を以て多し十右衛門の病を以
て多し貧乏を以て多し其後其の親を以て多し十右衛門の病を以
て多し貧乏を以て多し其後其の親を以て多し十右衛門の病を以

幸しく一子ありてしむをいふみ兒を喜ばしむるは漸く
 姪女成せりけり新^{にい}年^{とし}をとりてたも女主人をさみり難多
 乃下りさしよは近年十右衛門海老裏^{うしろ}に移すも自由な
 しよふも實^{まこと}なるをいふをなく益^{えき}支^し愛^{あい}号^{ごう}りり子^こ源^{げん}助^{すけ}ま
 めりお和^わ和^わすく町^{まち}の末^{すえ}もさるく性^{せい}行^{ぎやう}全^{ぜん}務^むきく熱^{ねつ}達^{だつ}
 公^{こう}聽^{てい}文^{ぶん}化^か十^{じゅう}二^に年^{ねん}閏^{うるし}八^{はち}月^{げつ}末^{すえ}朔^{しやく}の午^{うま}を共^{とも}に崇^{たか}奉^{ほう}せり
 幣^{へい}のひらり

笠惣五郎

笠惣五郎、右屋町に住る、年行目と名初めり、天性温厚よ

一、枕を好み多々女者よ米銭衣被を無へ甚人をあそび
 九月六津中社よりきりたり、就中文政五年十月大平を降
 移り、よ右堂町年寄畑茶屋次吉といふ者、いひ合せり
 室の考よ粒多の錢を救ひけり、い合、い粥^{かゆ}を煮、共
 へ饑^うを治る、せ且西門橋茶屋信の事、いけり、よめや
 一の、彼は志よりき熱達、公聽厚く考せり、二人
 扶持を仰り、よきよ、文政五年末二月、いけり

廣瀬兵右衛門

土居町廣瀬兵右衛門、穀物を短くを生理とす、い人

ありて一々其意を以て依物の仕立を以て其父の意を
いせりて其意を以て其父の意を以て其父の意を
せりて其意を以て其父の意を以て其父の意を
むすむる幼年の父は又の頼むるに母を以て其父の
家事の事なり店の事なり心をも入れし由なる事なり
り厳き事なりとて其意を以て其父の意を以て其父の
を施し其人の交り親しく人を以て其父の意を以て其父の
町まりより遠 君聴々其父の文政七年申子二月卯二
枚を初りて平日の行跡を以て其父の意を以て其父の

中村清三

箔屋番中村清三其父を以て其父の意を以て其父の
自意の事なり行ひの事なり其父の意を以て其父の
おの身を以て其父の意を以て其父の意を以て其父の
已す其金二万兩を以て其父の意を以て其父の意を以て其父の
其父の意を以て其父の意を以て其父の意を以て其父の
行其意多し其意を以て其父の意を以て其父の意を以て其父の
ひ承く其父の賦役を以て其父の意を以て其父の意を以て其父の
安政七年未子月二日其父の意を以て其父の意を以て其父の

松尾又次

橋本年行司松尾又次天性温厚な者なり平日才を
示し嚴密にして性行清直なり一の事一町奉行は
賞せしめたり

又次を以て一人遠賀郡山鹿村吉助口郡若原河源次
一人と數年忠志を竭し賞譽を蒙り其行奉り
居郡の部主あり

忠義者

清助

清助の西方寺前町飯田屋豊次郎一人と遠賀郡則

松村の吉次郎と豊次郎又源次郎の代り其公を承けり
清助生れ有實なり清直なり其行奉り其行奉り
了り其公の實政當年より源次郎高直一人と豊次郎
突入其妹の事なり又勿辨なり其行奉り其行奉り
よ一人を承け其公の代り其公の代り其公の代り
切なり其公の代り其公の代り其公の代り其公の代り
い向考合より其公の代り其公の代り其公の代り
知年の主人を以て其公の代り其公の代り其公の代り
き達 公聽寛政七年卯月其公の代り其公の代り



名達 君穂斎持の者ありとて文化九年申六月米五俵
 を賜り甲申年の忠実を告げせりおろひし理

藤吉

新川端町餅屋兵右衛門下人藤吉の兵右衛門祖父兵右衛門の時
 より尚代まで三代召仕の者吉とてれ一人あつて主人の
 衣をひきかちやうに侍とむる故兵右衛門の口より一息も互使
 ひたり老年よ及々身が家よりいへりてふりてふりてふりて
 けせしとも兵右衛門の家を助かすにたれおろし見取とて
 く其のく先王任せに今もまはる美事人心をあへたり

とくは若きより二十歳極老に及ぶまで数十年の間忠勤
を盡けられたる徳達 公聴文化九年申六月末五條を初
りたり

興吉

興吉、東町下酢屋新助の主人なり、生得律儀なる者なり、新助
祖天代より其家へ勤く精を以てし、怠りなく、主人死
尚も新助初年たりしを親切に申し立、家風を好まざん
三十余年忠志を盡し、たりし興吉父、那珂郡東光寺
村に在りし者なり、其先年病歿せり、其存生年若くは

厚く、法親を以て、不自由なり、故年、仕送り致しけり、又死
後、形甥子相愛し、其物をおくり、除切せり、由は是に
公聴天保九年戊子月末若くは是なり

次吉

次吉、金原の路町油屋平吉の主人なり、天保十一年八十三歳
に及り、平吉祖天代より奉公しけり、次吉極め、其家より
若年より其の朋輩より其の勤を以てし、其の徳を以てし、
其の功を以てし、奉公し、其の事、其の事、其の事、其の事、
忠言を以てし、其の徳を以てし、其の徳を以てし、其の徳を以てし、

もとの事法をそふ家や世業をとも要せんたるく
進んた事とも初年よりけら恩報おんほう一廻ひとめぐりして堅く辞退
一ある事法を居てけらるそのふま家裏うら微ひがせしむ
まけし事法を居るしむ進ん代替しむ事法とも堅志を愛
せしむ人をかりたる家と夫と夫とを後さむる此の達
君聽天保十二年三月米上儀を初り其事親の忠義を
獲う得とりしむる

吉兵衛

祇園町上伊藤千右衛門下人吉兵衛とて者あり其の律儀
たつ者多く千右衛門父代り奉公し高き志を有し身を
愛しんたをけらる家法を醸かまをせしけしむる先づ相
果一初り世帯裏うら微ひがけしむ吉兵衛居るふる事酒造を
そめ家も悉くけらる夜涼切居るけらる事
けらる事法を居るしむる事法一箇るしむる事法
とけん志しむる事法志を有しけらる事法
公聽表居るしむる事法初年より初め天保十五年
吉兵衛とて

カを爲すこと初めかゝる事なりかては法務部五年の
留忠志を以て且家内交睦まゝに近隣の交りも宜敷より
彼是達 公聴天保十二年丑七月米三俵を初りて
せりたり

茂助

茂助、表糟屋郡南里村の青々々々民年の時、土居町下
ま田に居たり。祖父よまかへけり。若くはれよま事にて
を用ひカをなす。はれよま二十餘年よ及びり。地
家追代のもりに居り。南に居り。初年よ々々家名を傳へ

よま賣向の事、一切茂助へ任せ重くは法務部より財用
の出入亦嚴重よま年々りか、初年より初年迄の店
に番附せよま六家内の者よままひけり。茂助が
さやまを身を入りけり。よま名朋等の男女共のつら
化誘せり。れ何まの風俗よりかきりよま々々三君也
能生ま家いよま。お高せり。又南里の老父をよま大切
よまの透をよま合せ不測也ま々々安否をよまひカをなす
らり。茂助、行系よま達 君聴、褒めり。れ八木
若くは初りけり。はれ天保十二年丑七月をり

藤助

社奉行藤助は志願郡木井村の者なり父を藤助とす
藤助は中出郡武田伊勢又伊勢とす父を藤助とす
了忠義を奉りけり伊勢死後諸屋為并金正次郎の
家より世を承りされし旨の旨思を忘れず伊勢の忌日
にはおやの墓を参りて哀をなす向志をなす一月十日
を奉りて勿論西次郎方より所より商賣の心を利ひ
力をなすといふ藤助の事名を承りされ 君藤助
遠く其志の親切なりと云ふは天保十四年卯八月

五月八日

伊三郎

伊三郎は昔其弟伊作兄あり父ともたふ家あり者より土
居町中米屋鹿太郎の家より奉りけり近年高賣不廻り
て家業を承りてを承りて勤事兄ありし旨を承りて
を承りて心をなすといふ藤助の事名を承りされ
おやの御事なりけり藤助の事名を承りされ
今も兄あり三人の御事なりと云ふ者より承りて
其御事なりと云ふ者より承りて其御事なりと云ふ者より承りて

一越達

公聽米若干を納りけり其褒賞せり

事より若干けり年月詳しき事

嘉永年中迄存生者

嘉永三年戊

中島町

同年日月

落屋番

四月賞譽

清助

同

嘉平

同年日月

辻堂町下

同

伊助

筑紫遺愛集卷三終

近世文藝叢書

怡土郡
志广郡

四

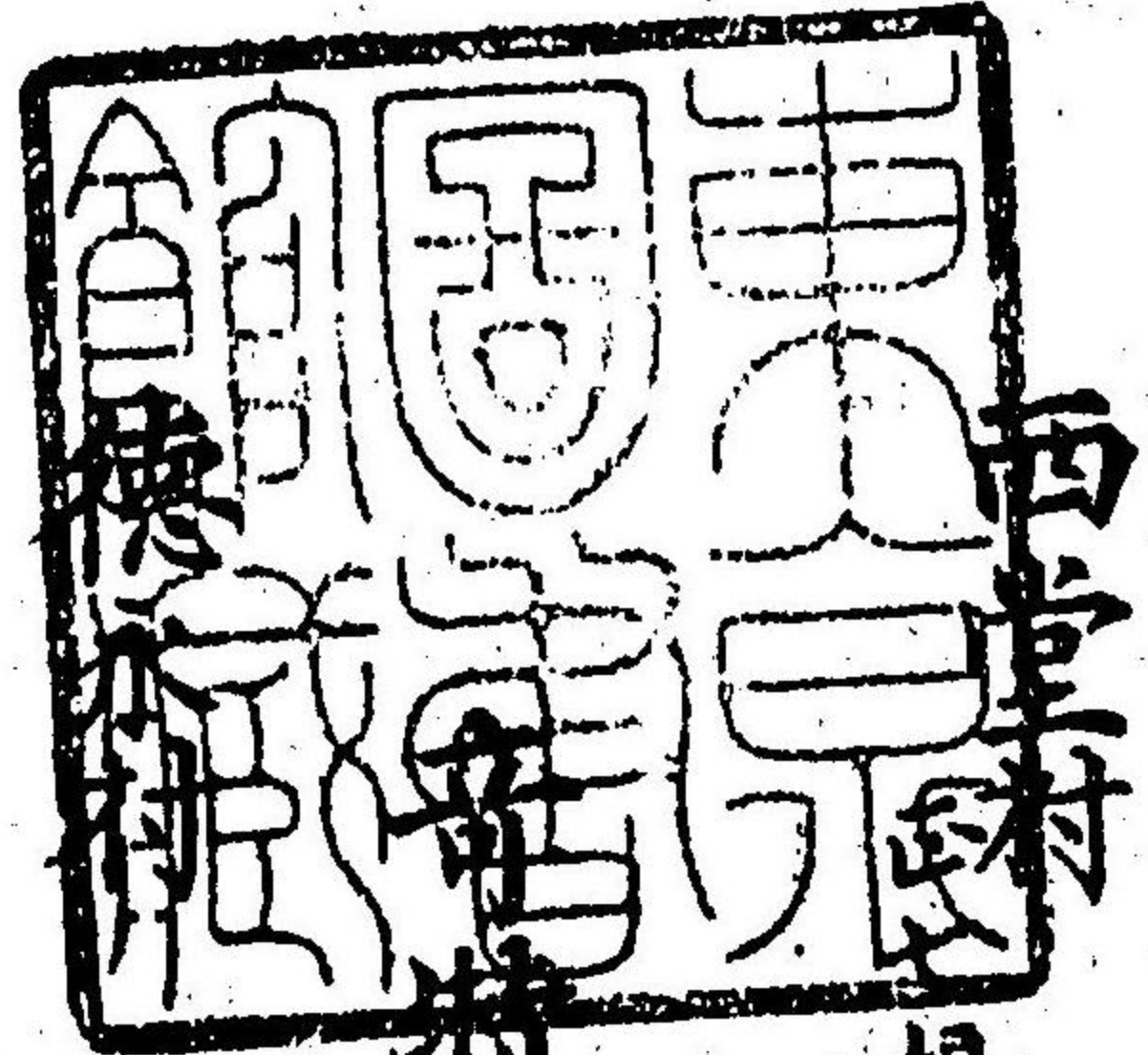
111
254

館書圖京東			
一 四 冊	二 五 號	一 二 架	一 二 類 門

筑紫遺愛集卷四目錄

怡土郡

孝心者



西堂村

長五

特者

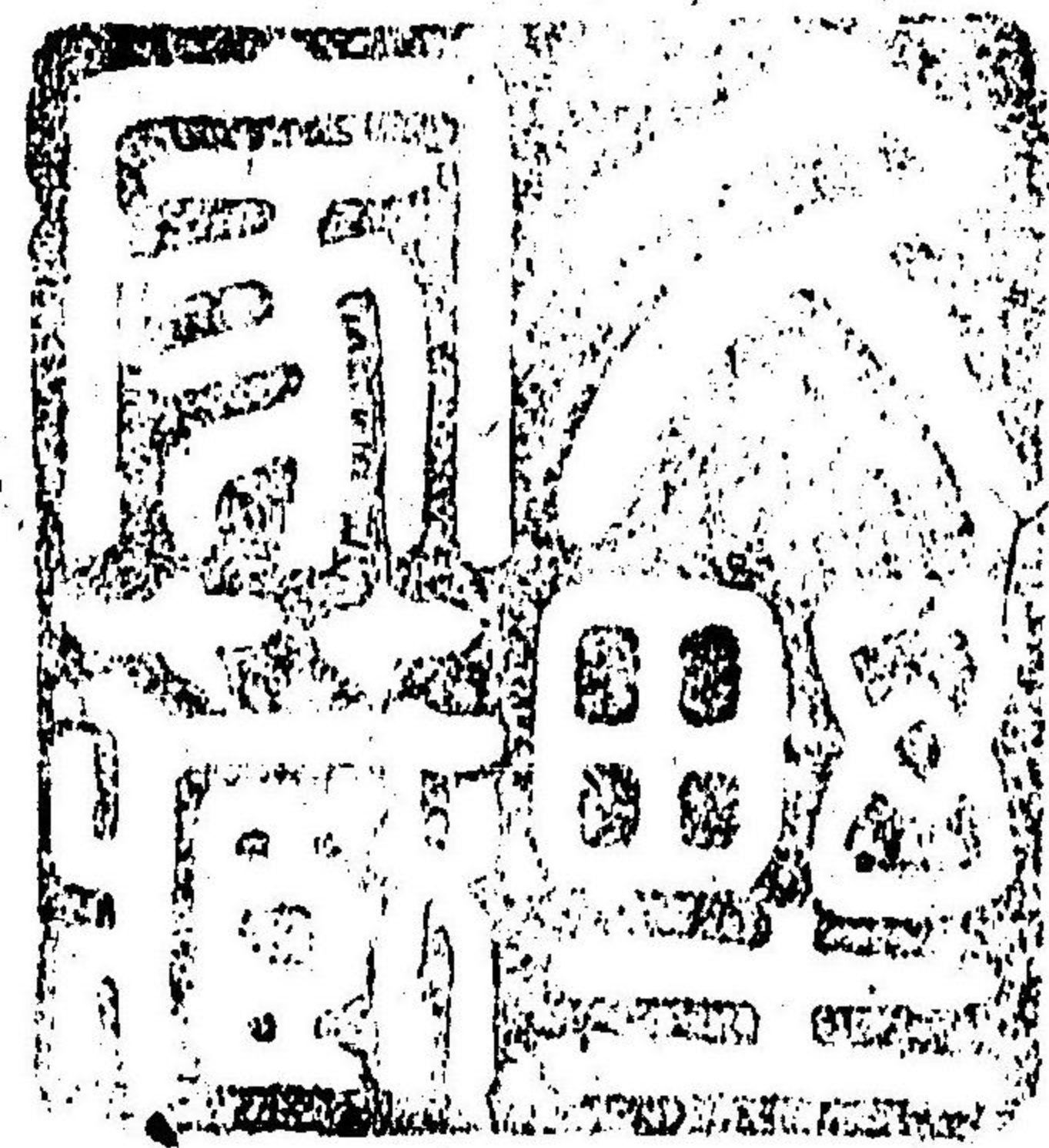
長五

勤功者

堂督録

大門村

平太娘



田尻村
庄屋
次平

徳永村
庄屋
惣兵衛

志摩郡

孝心者

前原宿

正七

櫻井村

作右衛門

新田村

文吉

小田村

喜右衛門

前原宿

仁吉

前原村

助右衛門

芥屋村

幸作

芥屋村

元次

泊村

幸吉

奇特者

潤村

徳藏

田尻村

善七

櫻井村

善八

宮浦

千藏

板持村

市三郎

稻富村

八次

勤功者

御床村

大庄屋
甚吉

御床村

大庄屋
儀助

元岡村

大庄屋
半内

文雅者

馬場村

神官
行廣紀伊守

長壽者

昔はさう一族の者より再三妻を呼入る事ありけり
ぬとのに事続きは賦の多きを以て父母并弟を兼をたみ
ひくまひて兄弟の子に成長し母の孝行に及び風儀
しりて農業をむねて女は教をうけ守り家内にて
まこと言やひてしりて貞實にありし時の人
少くやせし事やとて違 公徳享和元年酉六月青
銅若下をぬめ

ゆい

ゆい大門村平太とてさかの娘をうけ平太は先年病死し

獨母を養ひて田畠を及ぶ畝斗ありけりを自ら耕作根付稻
井をい女は事やとて之に文政三年の首を村中一
に取納し農業のいりては本家あちんはりありひ日雇を
て其の事少くも老母を養ひて居りては人等も母の
教を守りて居りて奇特の者ありゆき 公徳文政三年
辰八月末若下をぬめ

奇特者

長五

長五は徳永村の人なり其の事少くも老母を養ひて居りては人等も母の
地を自ら耕作をせし事ありては人等も母の

業をなげきけりたるは其の下の口の傍に傷まきくがれ多
勢男女をいばひけきりたるは其の下の口の傍に傷まきくがれ多
悲しく孤獨のこころをなげきけりたるは其の下の口の傍に傷まきくがれ多
一々其の下の口の傍に傷まきくがれ多
越へておのれが村中の世はねひりたるは其の下の口の傍に傷まきくがれ多
せよとてやうと驕慢の心をもて越へておのれが村中の世はねひりたるは其の下の口の傍に傷まきくがれ多
ひのりともきくは其の下の口の傍に傷まきくがれ多
公徳寛政五年
丑十月に銅差下を初り多年の善行を祈る

長五孤獨のこころをなげきけりたるは其の下の口の傍に傷まきくがれ多

埋のりともきくは其の下の口の傍に傷まきくがれ多

誇りともきくは其の下の口の傍に傷まきくがれ多

勤功者

次平

次平の田尻村の世をなげきけりたるは其の下の口の傍に傷まきくがれ多
斗のりともきくは其の下の口の傍に傷まきくがれ多
用事潔白して村中の治をなげきけりたるは其の下の口の傍に傷まきくがれ多
志をなげきけりたるは其の下の口の傍に傷まきくがれ多
南村のりともきくは其の下の口の傍に傷まきくがれ多
夏多のりともきくは其の下の口の傍に傷まきくがれ多

未利を林や本業よわつた志先控階よ頼りさうし先も
大方績といひつゝ一もは法をまよき身居を造建し
或は餓死の子孫を幸者の際をさうし塔婆を造建し
せど此の事亦皆貴き事なり候あり越五郎と云
まら保正の任は勝たせりといふ事なり

志摩郡

孝心者

五七

正七前多宿の人と申事といふ者の昔はさういふ事
正五前なるも申事なり其は此の申事なりと云ふ事なり
残る者も青目或は高入といふ者も社母はさういふ事なり
まら保正の任は勝たせりといふ事なり
義者もさういふ事なり
青目社母もさういふ事なり
此る保正の任は勝たせりといふ事なり

否を勿ひおぼろむ心をそとけりて父母を侍りて追孝の志
承るる事農業者に勵むに自ら抱へる田島
け作とて此所並及金を耕作一年に法を絶えずをその奇特
の者たる由達 公徳寛政五年丑土月米若干を初り石を
褒將大せさせし

作右衛門お多子に父母を多年病ひよゆを病謀
をそとけりて父母を侍りて追孝の志
承るる事農業者に勵むに自ら抱へる田島
け作とて此所並及金を耕作一年に法を絶えずをその奇特
の者たる由達 公徳寛政五年丑土月米若干を初り石を
褒將大せさせし

た孝子らしき

吉右衛門

吉右衛門小田村の人なり生得溫和たんごなり孝子として父
母を事し方甚よ成長に随ひ給はり孝行を著し他人の應對およたて丁
寧ねいに人なほしき事ありてかたを心にたたく農業者に
心をやせしむる事ありて母病死せし時父を侍りてその教おし
少も父の心を養ふ事ありて父叔種を侍りて遠くを侍り
にその遠くを侍りて父を侍りて名れをその侍
苗代田を侍りて父を侍りて名れをその侍

不^レ嚴^レそ^レう^レく^レ白^レく^レ農業^ノ糧^ヲ年^一積^ル納^述を^志す^ル
しき^ニ整^達 郡^廳米^ノ丁^ノ世^ノ所^ノに^寛政^八年^辰
買^ナり^テ貯^ル

仁吉

仁吉^ハ前^京宿^ノ人^ナり^シ得^ル者^ト者^ト由^畠六^反七^畝を^持た^ス
其^ノ地^ヲ及^シ畝^ノ自^ラ作^ルに^けり^キ米^ノを^儲け^シ
方^策一^ク又^志七^斗一^升を^納め^ルに^けり^キ朝^暮を^用
心^ヲ暑^クハ^日を^作り^テ積^ルに^けり^キ今^抱積^を一^斗を^用
て^忠七^斗を^納め^ルに^けり^キ求^ルに^けり^キ進^出行^ハれ^ルに^志す^ル

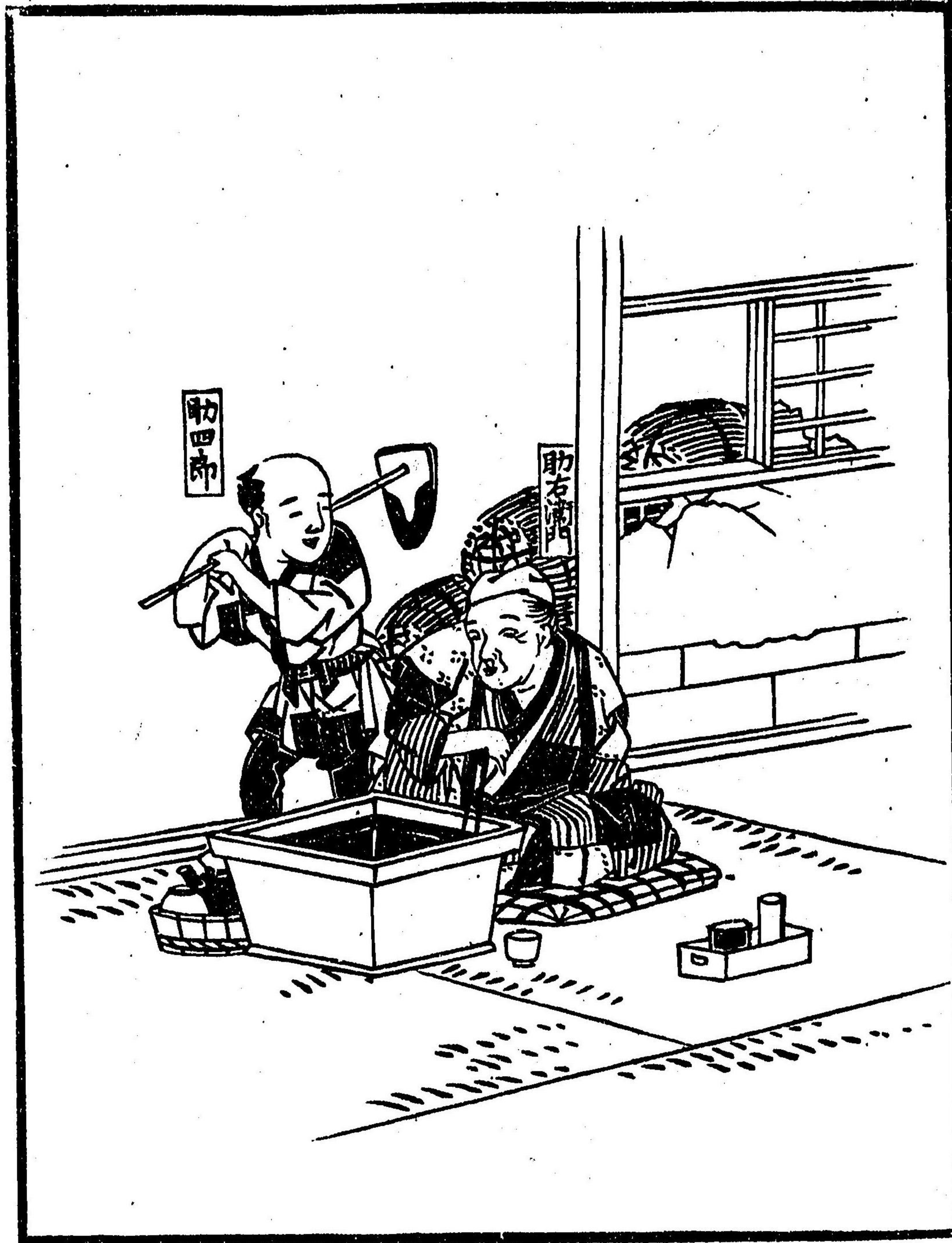
農^ノ糧^ノを^二父^ノ母^ノを^一養^フに^志す^ルに^けり^キ積^ルに^けり^キ親^ノを^養ふ^ル
孝^養有^キに^達 公^聽享^和三^年亥^三月^米若^テを^褒
美^ニす^ル

助右衛門
助四郎

助^右衛^門ハ前^原村^ノ人^ナり^シ生^得負^實者^ト者^ト若^キに^けり^キ
う^レに^農業^ノ糧^ヲを^積む^ルに^志す^ルに^けり^キ百^石を^納め^ルに^志す^ル
二^年に^一五^十年^ヲ其^村方^園に^納め^ルに^志す^ル米^を選^りて^補助^ス
せ^しに^糧を^貯め^ルに^志す^ルに^けり^キ錢^數を^貯め^ルに^志す^ル
て^利を^貯め^ルに^志す^ルに^けり^キ父^母を^養ふ^ルに^志す^ルに^けり^キ死^後に^志す^ル

おもひにきりし家なき子母を懐り二男と名に家を造りて
 丁組頭を勤む二男助四郎と名けし時より父を孝行せしは助右衛門
 に事しては事なきは父の業を父の如くし居夜力を
 盡しとる也助右衛門文政三年今三歳極老かたは料理方いさ
 せりて教導せしは父の如く父を孝心せし家内夫人膝す
 考し由達 公聴文政三年卯十月助右衛門の末若子を納り
 助四郎と名に銅方と名けしは猿堂といふ

助右衛門親を孝行しはより其子助四郎亦助右衛門
 孝行をなせり孝子不置永賜爾類と云助右衛門父子



の御事

幸作

幸作ハ芥屋村の人ナリ生得久家ニシテ孝思あり田畠を町
斗持抱(耕)耘をそけみ年貢次第に収納せり父若助より者
中風を以て體(し)たけす母は病多し一藝所を自給するを父の病
減きを以て農業の出入まよつて父母の老を以てひそく父母のぬめ
るに付まよひ其の病を治すべくせん徳をなせんとあたまを以て行入
おまゝに遊め給ひていふなりつて父母死せり一六に孝の志
を承つりききし家々を以て時々一に近隣の交りも親切

に孝心奇特なる由也

公聴天保六年未五月米差了を

賜りし由

元次

元次ハ芥屋村の人ナリ稟(りん)賞(しょう)に當りて考りて獨母を養ふに孝
母の老を以て養ふに孝を以て母平日酒を以て飲めば
下止めおまゝに御しす是より母八十八歳極老に病を以てひけきハ赤心
を以て忠孝に於ていふなりつて一六に孝の志

公聴天保六年未五月八木差了を准(ほん)發(はつ)し平日の行跡を稱譽

しあり

に付しきり去り享和三年を納を勿ひしと昔より農業出粒を
常より其のより人の世より茶葉細子の粒をたぬ人なり
角く丁銀九貫文よりしを 國君にたより貯しせぬのみを
祝しよりより寸志よりしきしを納ひしよりしめひしを
善年より極老に及ぶより住よりし志よりしき里を褒獎
せし米拾俵を納ひぬ

善七善年より農業をよりしむよりしむよりしむよりしむ
志よりしむよりしむ細子の粒をたぬ人なりしを正徳よりしむ
よりしむよりしむよりしむよりしむよりしむよりしむよりしむ

丁のんそや若きめき純民よりしむ

善八

善八横井村の人なりしむよりしむよりしむよりしむよりしむ
役を大切し勤め年貢法と納述よりしむよりしむよりしむよりしむ
近隣の交りよりしむよりしむよりしむよりしむよりしむよりしむ

千藏

公聽より納若しと納りよりしむよりしむよりしむよりしむよりしむ
千藏官浦の者よりしむよりしむよりしむよりしむよりしむよりしむ
余よりしむよりしむよりしむよりしむよりしむよりしむよりしむ

先公後大切の勲也又亦吉存すの日事一方より一族の交
アト受かり階甲より教ふるに在りて子孫の行ひよ
ハ志よりかきく家内よりひきくきされ文政三年辰
七月子孫の行跡達 君聽まて綱着てを物ひぬ

市三郎

市三郎は板持村の人なり田畠八町九反余のち農業者の精を以
年貢法は旧年毎々米子納あり市三郎は得て置きしるを
教と人をおとれしを村内より多貢のきつて國宮の道へ
まるとりて後教と申か世人共々を清くせしむるの徳

たる名録の利をきくしむるに年毎々を米子納せしむ
市三郎の行ひ多くとおほひなりしをかくるにたはるなり
ちくせよありしに達 公聽文政三年辰七月を綱着てを
褒美あり

八次

八次は稻高村の人なり生厚は修持たり者より一に差るるなり
耕耘心細く年貢より米子納納に公役より大切を勤め
ア生む極ありしを治たりて君を安んずるに道徳を
の按撫あり自ら修補し老角人のためをきねまきしを親切

奇特者

文政三年辰
三月賞譽

元岡村

平作

同年三月

同村

作次

同年同月

櫻井村

藤平

同年同月

高田村

太藏

嘉永二年酉
二月同

前原村

正作

勒功者

嘉永六年丑
三月賞譽

青木村

庄屋文七

同年同月

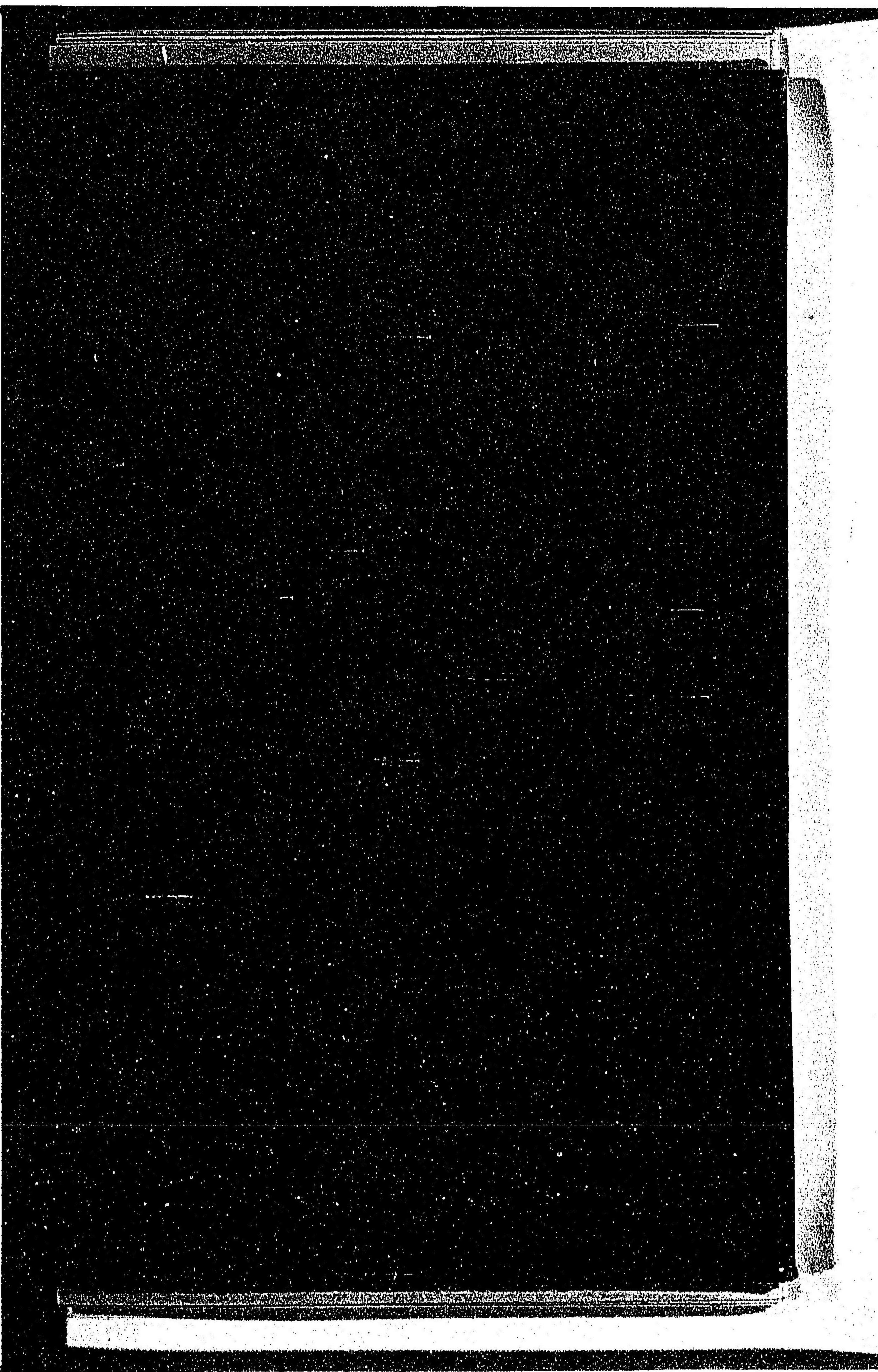
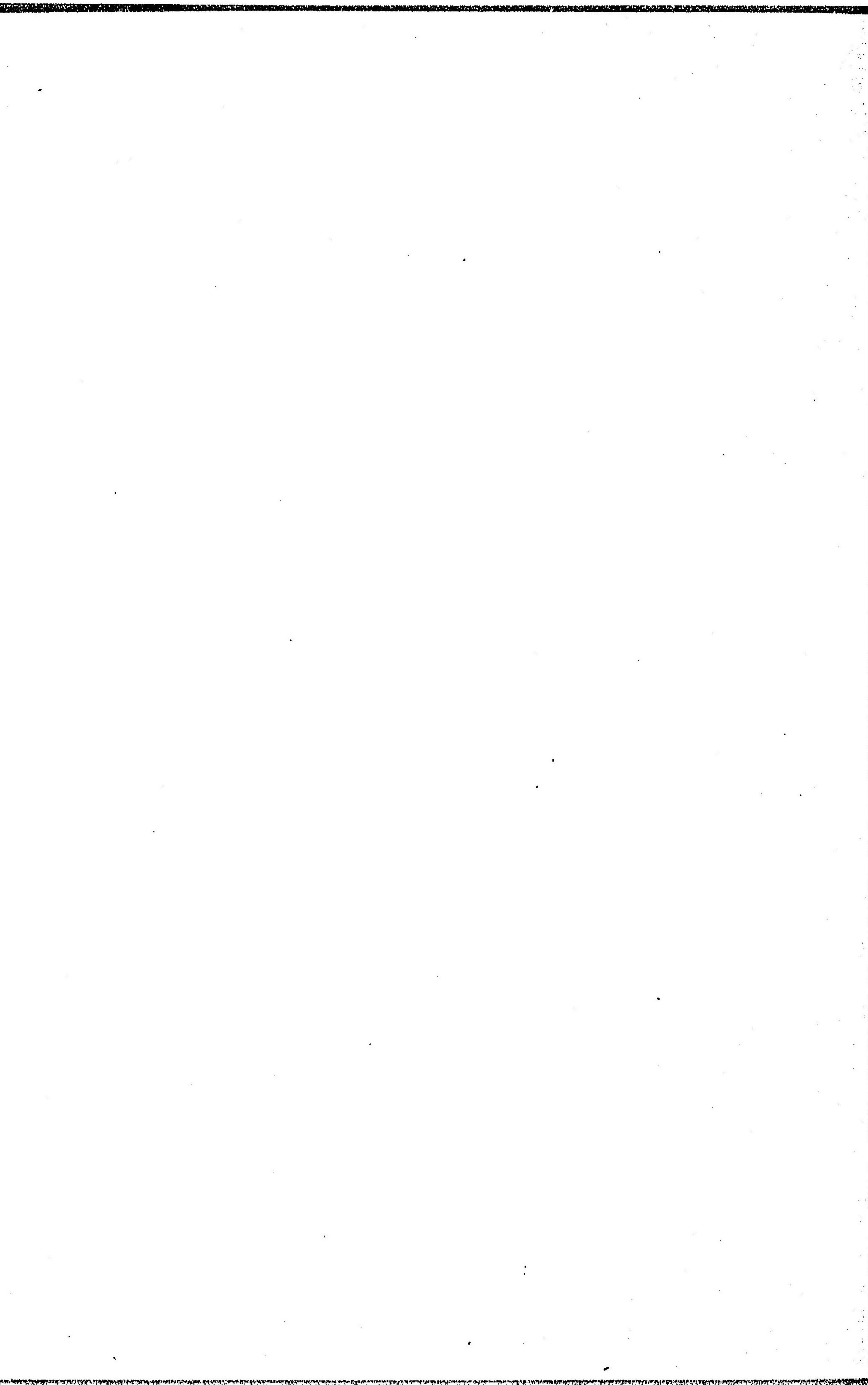
水崎村

吉三

筑紫遺愛集卷四終

111
7
254

[The right page of the manuscript is almost entirely obscured by heavy horizontal black bars, likely due to scanning artifacts or intentional redaction. Only a few faint, illegible traces of text are visible through the bars.]



111
7
254

阮紫遺愛集

博多郡下
昭少郡

三四